

2017 年度秋季大会の告示

I. 大会の案内

1. 期 日

2017 年 10 月 30 日（月）～11 月 2 日（木）

2. 会 場

北海道大学 学術交流会館（他：同 クラーク会館）
札幌市北区北 8 条西 5 丁目（他：札幌市北区北
8 条西 8 丁目）

<http://www.hokudai.ac.jp/>

会場には駐車スペースがないため、公共の交通機
関でのご来場をお願いします。

3. 研究発表

口頭及びポスター形式で行われます。研究発表の
詳細につきましては下記「IV. 研究発表要領」をご参
照下さい。

4. 大会日程

大会は以下の日程で行われる予定です。

第 1 日（10 月 30 日）

午前：口頭，ポスター

午後：口頭

第 2 日（10 月 31 日）

午前：口頭，ポスター

午後：授賞式，受賞記念講演，懇親会

第 3 日（11 月 1 日）

午前：口頭，ポスター

午後：シンポジウム

第 4 日（11 月 2 日）

午前：口頭

午後：口頭

5. シンポジウム

大会第 3 日（11 月 1 日）の午後に開催予定です。
テーマは「北極域」です。

6. 懇親会

大会第 2 日（10 月 31 日）の夕刻（18:00～20:00 を
予定）に、ホテルマイステイズ札幌アспен（旧・
札幌アспенホテル）にて開催予定です。

7. 大会ウェブサイト【2017 年 6 月 13 日（火）開 設予定】

本大会では、大会ウェブサイトを、2017 年 6 月 13
日（火）より開設する予定です。講演申込み受付や
大会プログラムなどの詳細につきましては、こちら
をご参照下さい。URL 等につきましては、気象学会
ホームページ（<http://www.metsoc.jp/>）をご参照下さ
い。

II. 大会参加手続き

1. 講演を行う場合の参加申込方法

「天気」本号掲載の「日本気象学会 大会発表規程」
に従って講演の申し込みを行って下さい。

原則として大会ウェブサイト上からオンラインで
行って下さい。オンラインで大会予稿原稿を送付で
きない場合や、クレジットカードによるオンライン
決済ができない場合など、止むを得ない事情がある
場合は、電子メールによる申込を受け付けます。

なお、大会参加登録・参加費支払済みであること
を講演申込資格とさせていただきますのでご注意下さい。

また、非会員の講演申込は専門分科会に限定してい
ますのでご注意ください（VI. 非会員、団体会員の
大会講演について）。

1.1 オンラインによる申込

- ・締切：2017 年 7 月 11 日（火）15 時（日本時間）
- ・大会ウェブサイトを参照し、指示に従って申し込
みをして下さい。
- ・大会ウェブサイト上で最初に個人情報と ID・パス
ワードの登録を行います（前回の ID・パスワード
はそのまま利用することはできません。お手数で

すが、改めて個人情報とID・パスワードの登録を行って下さい。このIDとパスワードによって登録システムにログインし、大会参加登録・講演申込・大会予稿送付・参加費決済などを行います。

- ・個人情報とID・パスワードの登録は講演者本人が行ってください。申込締切後、プログラム編成を支障なく進めるために、登録された個人情報は講演者本人のものであることが必要です。また、一つのIDで、講演者の異なる2件の講演申込を行うことは控えてください。ご協力をお願いします。
- ・今大会では、事前に郵送で大会参加票と大会案内冊子を届ける予定です(XII. 大会実行委員会からのお知らせ)。登録の際には、郵送物を受け取る事が出来る住所を記入してください。
- ・講演申込の前に、予め大会参加登録と参加費の払込(クレジットカード決済)を行って下さい。大会参加登録と参加費の決済が行われていない場合、講演申込は受け付けられません。
- ・オンライン決済の際には、個人情報登録者本人以外の名義のクレジットカードも使用可能です。
- ・大会予稿原稿もウェブサイトよりご送付下さい。ファイル形式はPDF(容量の上限は1MB)に限ります。
- ・大会予稿原稿を投稿する際には、ウェブサイト上で著作権委譲に同意する必要があります。
- ・講演に関する要望がある場合は所定の欄に記入して下さい。要望事項は、プログラム編成時に可能な限り考慮するように努めますが、諸事情により要望に沿えない場合があるのでご了承下さい。なお、口頭発表の発表日時の希望は原則として受け付けません。また個別の要望についての回答は致しませんので、併せてご承知おき下さい。
- ・講演申込み締め切り(7月11日(火)15時)までは、ウェブサイト上において、一旦申し込んだ講演申込の登録内容の修正や大会予稿原稿の差し替えなどを行うことができます。ただし講演のキャンセルはできません。
- ・締め切り後の講演申込や大会予稿原稿の差し替え等は受け付けません。

1.2 電子メールによる申込方法【事務負担軽減のため、なるべくオンライン申込をご利用下さい】

- ・締切：2017年7月4日(火)

(オンライン申込に比べて締切日が1週間早くなっています。ご注意下さい。)

- ・以下の4点を講演企画委員会事務局(下記)まで電子メールにてお送り下さい。

- ① 大会予稿原稿(PDF形式)
- ② 講演者氏名(漢字、ふりがな、ローマ字)、所属、所属略称、会員番号、発表形式、連絡先(住所・電話番号・E-mailアドレス)、講演題目、主・副キーワード、参加種別(講演者A/講演者B)、懇親会(参加/不参加)、その他必要事項を書いたもの(様式は自由)
- ③ 郵便振替払込受領証のコピー(次項参照)
- ④ 全ての著者のサインを記載した著作権委譲承諾書(フォーマットは以下に掲載)

http://www.metsoc.jp/E/msj_copyright.pdf

送付先：kouenkikaku2017a@mri-jma.go.jp

(件名に「講演申込2017a」と明記して下さい。)

- ・講演申込の前に、以下の要領に従って郵便振替によって参加費を納入して下さい。

—口座番号は「00130-3-5958」,

加入者名は「日本気象学会」です。

—「通信欄」に以下の項目を記入して下さい。

- ① 「2017年度秋季大会参加申込」と明記
- ② 会員番号(非会員の場合は「非会員」と明記)
- ③ 大会参加種別(講演者Aまたは講演者B)
- ④ 参加費金額
- ⑤ 懇親会費金額
- ⑥ 合計金額

—「払込人住所氏名」の欄に、住所・氏名・電話番号をもれなく記入して下さい。

—払込料金は本人負担でお願いします。

1.3 講演のキャンセルについて

- ・講演申込み後は、講演のキャンセルは原則として受け付けられません。止むを得ず大会参加や発表を取り止める場合でも、すでに支払われた参加費・懇親会費は返却しませんのでご注意下さい。
- ・講演者の都合が悪くなった場合の代理発表につきましては、柔軟に対応いたしますので講演企画委員会(kouenkikaku2017a@mri-jma.go.jp)までご相談下さい。ただし、非会員による代理発表は認められません。

2. 講演をしない（聴講のみ）場合の参加手続き

以下のいずれかの方法で参加費等を納入して下さい。事務負担軽減のため、なるべくオンライン（大会ウェブサイト）による事前登録をご利用下さい。

2.1 オンラインによる申込

2017年8月29日（火）15時（日本時間）までに大会ウェブサイトに参加登録し、参加費を払い込んで下さい（クレジットカード決済のみ）。期日までに参加費の払い込みが済まされない場合は、参加登録は無効となります。

今大会では、事前に郵送で大会参加票と大会案内冊子を届ける予定です（XII. 大会実行委員会からのお知らせ）。登録の際には、郵送物を受け取ることが出来る住所を記入してください。

2.2 郵便振替による申込方法【事務負担軽減のため、なるべくオンライン申込をご利用下さい】

・2017年8月22日（火）までに、郵便振替で参加費を払い込んで下さい。

－口座番号は「00130-3-5958」、

加入者名は「日本気象学会」です。

－「通信欄」に以下の項目を記入して下さい。

- ①「2017年度秋季大会参加申込」と明記
- ②会員番号（非会員の場合は「非会員」と明記）
- ③大会参加種別（聴講者 A または聴講者 B）
- ④参加費金額
- ⑤懇親会費金額
- ⑥合計金額

－「払込人住所氏名」の欄に、住所・氏名（漢字、ふりがな、ローマ字）・電話番号をもれなく記入して下さい。

－払込料金は本人負担をお願いします。

－今大会では、事前に郵送で大会参加票と大会案内冊子を届ける予定です（XII. 大会実行委員会からのお知らせ）。上記の住所記入の際には、郵送物を受け取ることが出来る住所を記入してください。

2.3 大会当日に会場で申込

当日会場で参加登録をして、参加費を現金で支払って下さい（当日料金は前納と比べて割高となっていますのでご注意ください）。

3. 参加費、懇親会費

3.1 参加費

・参加費（食事代等は含まれません、消費税込）は以下の表の通りです。

参加費		
種別	前納	当日
講演者 A	8,000 円	－
講演者 B	5,000 円	－
聴講者 A	3,000 円	4,000 円
聴講者 B	5,000 円	6,000 円

・講演者の種別：

講演者 A：研究機関・大学に所属する講演者（ただし、学部生・院生は除く）

講演者 B：講演者 A に該当しない講演者

・聴講者の種別：

聴講者 A：気象学会会員の聴講者

聴講者 B：気象学会会員以外の聴講者

・講演件数が2件の場合も参加費は変わりません（講演件数による加算はありません）。

・気象学会会員でない方の講演発表については、「IV. 非会員、団体会員の大会講演について」を参照してください。

3.2 懇親会費

・懇親会費（消費税込）は以下の表の通りです。世代を問わず多くの方々に参加していただき交流を深めたいと思います。

懇親会費		
種別	前納	当日
一般	5,000 円	6,000 円
学生	4,000 円	5,000 円

・懇親会費はオンラインもしくは郵便振替で参加費と同時に前納することが出来ます。期日までに懇親会費の払い込みが済まされない場合は、前納による参加登録は無効となります。当日料金は前納と比べて割高となっていますのでご注意ください。

3.3 その他

・一旦支払われた参加費・懇親会費は返却いたしません。

・参加費・懇親会費の種別は、支払い時点での所属によって判断して下さい。一旦支払われたあとの

所属変更などによる種別の変更はいたしません
(追加の支払い請求や差額の払い戻しなどは行い

ません).

Ⅲ. 大会予稿原稿作成要領

1. 原稿サイズ・枚数

1 件あたり A4 判 1 枚とします.

2. 作成方法

ファイル形式は PDF (容量の上限は 1 MB) とします.

3. 印刷

原稿は B5 サイズに縮小されて白黒でダイレクト製版されます. 階調のある写真や図は, 明瞭度が落ちる場合がありますので作成時にはご注意ください. 特に, カラーの写真や図は明瞭度が極端に落ちる場合がありますので, 予めご承知おき下さい.

4. 配置 (付図参照)

記載範囲は縦 250mm×横 170mm 以内とし, 上部には 20mm の余白をとって下さい. 最上段に講演題目, その下に著者と所属を書き, 本文をその下につけて下さい. 著者が複数の場合には講演者の左肩に *をつけて下さい. 講演題目から本文までの間隔は

20~25mm として下さい. 本文は原則として 2 段組 (左半分→右半分) にして下さい.

5. 著作権

予稿集に掲載された文章および図表の著作権は (公社) 日本気象学会に帰属します.

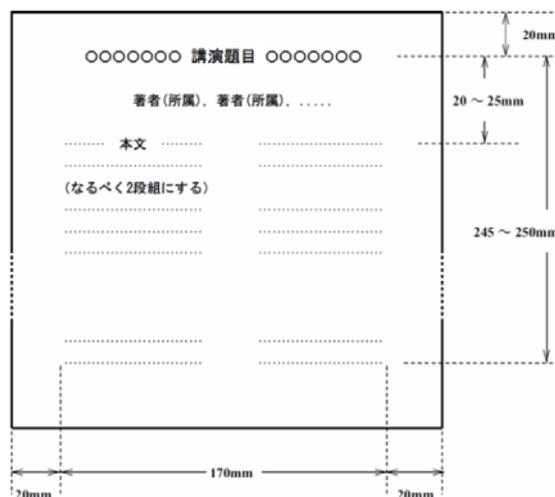


図: A4 判用紙による大会予稿原稿の作成要領

Ⅳ. 研究発表要領

1. 発表の種類

講演方法には, 口頭発表 (専門分科会を含む) とポスター発表の 2 種類があります.

2. 発表件数の制限

1 講演者あたりの発表件数は 2 件以内とします. ただし内容がほぼ同一と見なされるテーマでの 2 件の発表は認められません. この制限に抵触する申込があった場合には, 講演企画委員会が適切に対応します. また, 2 件の口頭発表を申し込まれた場合, 希望通りのセッションに組み込むことが出来ない場合があることをご了承ください.

3. 講演方法の選択について

講演方法 (口頭/ポスター) につきましては講演申込時に選択できますが, 申込件数や会場の都合等により希望通りにならない場合があることを予めご了承ください. なお, 講演申込時に講演方法の希望がない場合は, 講演企画委員会の裁量で振り分けを行います.

4. 口頭発表の概要

口頭発表の講演時間は全て同一とします. 1 件あたりの講演時間は, 口頭発表に配分された時間の総計を申込件数で割ったものを目安として講演企画委員会が決定し, 大会プログラムに掲載します.

5. 専門分科会の概要

- ・専門分科会の各講演の講演時間は世話人が決定し、大会プログラムに掲載します。
- ・専門分科会への講演申込み締切日は一般講演と同じ（オンライン申込は7月11日（火）、電子メール申込は7月4日（火））です。
- ・専門分科会に申し込まれた発表については、世話人が大会予稿原稿を審査して、専門分科会での発表を認めるかどうかを判断します。
- ・専門分科会に申し込まれた発表が、世話人によって専門分科会に適さないと判断された場合には、講演者が気象学会会員の場合は、一般発表に振り替えます。講演者が非会員の場合は、大会予稿は不採択となり、参加費が返却されます（VI. 非会員、団体会員の大会講演について）。
- ・各セッションの詳細につきましては、「V. 専門分科会のテーマと趣旨」をご参照下さい。

6. ポスター発表の概要

- ・ポスター発表の時間は1時間程度とします。ポスター発表の時間には他の行事は行われません。
- ・ポスターは終日掲示可能ですが、ポスターの掲示・撤去は、講演者の責任で行って頂きます。
- ・掲示スペースは、縦180cm×横90cmとします（ただし、足元からパネルが立ち上がる点に注意）。なお、ポスターは大きな紙1枚に書く必要はなく、小さい紙に分けて書いたものを当日並べて掲示しても構いません。

7. 講演における機器の使用について

- ・口頭発表（専門分科会を含む）につきましては、PCプロジェクターが使用できます。それ以外の機器は使用できません。

- ・PCプロジェクターを使用する場合は、以下の点に留意して下さい。

- －パソコンは各自でご準備下さい。会場にはプロジェクター、VGAケーブル及びHDMI-VGA変換アダプタを準備します。VGA（ミニD-sub15ピン）、あるいはHDMI（フルサイズ）コネクタを装備したPCが使用できます。
- －セッション開始前の休憩時間などを利用して、必ず接続の確認を行っておいて下さい。接続に不安がある場合は、その際に会場係に申し出て下さい。
- －突然の故障や接続の際のトラブルが発生した場合、座長の判断で発表順の繰り下げなどの対応をすることがあります。携帯用メディアによるバックアップファイルの準備など、トラブルへの備えは講演者自身で行って頂くようお願いいたします。

- ・ポスター会場での機器の使用を希望する場合は、機器の名称およびその使用方法を、講演申込み時に届け出てください。口頭発表への申し込みをする場合も、プログラム編成上の都合によりポスター発表に振替られた時に、機器を使用する可能性があれば同様に届け出てください。ただし会場の都合により、その要望が受け入れられる保証はありません。

8. その他

- ・大会プログラムは「天気」9月号及び大会ウェブサイトに掲載されます。
- ・口頭発表セッションにおける座長は、テーマごとに発表者の中から選ばれることが多くなっています。講演企画委員会が、座長候補者を選び、候補者へはその承諾に関する打診を行いますので、その際にはご協力願います。

V. 専門分科会のテーマと趣旨

2017年度秋季大会では下記の通り、6件の専門分科会が開かれます。

1. 「気象や気候の変化は人の健康にどのような影響を及ぼすか -生気象学の知見を共有する-」

趣旨：気象や気候の極端な変化に起因する健康被害が、世界各地で報告されている。熱波の襲来による高温現象は、インドなど低緯度地域に限らず、ヨーロッパのような暑さに日常馴化していない高緯度まで、熱中症の甚大な被害をもたらす。冬季

における寒波の襲来は、数時間で起こる気温の急変によって急性の呼吸器疾患や循環器疾患の誘因となり得る。一方、長期的な気候の変化は、 Deng 熱やインフルエンザなど感染症の変異や拡大のきっかけになる恐れも懸念されている。生気象学の分野では、その健康影響や実際の被害を生理学的・疫学的に明らかにし、特定の環境曝露を想定した健康リスクを評価・予測している。このような生気象学に関連する講演を募集し、気象や気候変化の健康影響に関する重要な知見について気象学会でも共有することを目的とする。

世話人：大橋唯太（岡山理科大学）、寺尾徹（香川大学）、日下博幸（筑波大学）、井原智彦（東京大学）、鈴木パーカー明日香（立正大学）

2. 「気象とくらし ～北の大地からのイノベーション～」

趣旨：古来より、気象はその地域に住む人々に影響を与え、独自の文化を育む重要な要素となっている。特に、日本の最北に位置する北海道は、独特な気象条件を有し、多くの恵みと共にしばしば気象災害をもたらしてきた。近年では、急速な科学技術の進歩の恩恵を受けて、気象情報のみならず人々のくらしは高度化かつ多様化しているが、それらを有機的に結びつけることで、新たな取り組みや未知の発見など、大小を問わずイノベーションが生まれる土壌が備わっていると考える。本セッションでは、様々な気象現象と、防災、食、農林水産、インフラ、観光、小売り、教育など様々な「くらし」を組み合わせた取り組み、研究、考えなどについて気象予報士、実務者、研究者等から幅広く発表内容を募集します。天気と生活が左右されることが多い北海道で「気象とくらし」をテーマにそれぞれの立場からの発表を通じて情報共有し、北の大地からのイノベーションを発信したい。

世話人：和田直人（日本気象予報士会）、根本学（日本気象予報士会）、原田裕介（日本気象予報士会）、志田昌之（日本気象予報士会）、森山知洋（日本気象予報士会）、岩田修（日本気象予報士会）、荒川知子（日本気象予報士会）、岡田登志恵（日本気象予報士会）

3. 「大規模アンサンブル気候実験を用いた新しい研究の展開」

趣旨：近年の計算機能力向上に伴い、「地球温暖化対策に資するアンサンブル気候予測データベース (d4PDF)」のように気候モデルによる大規模アンサンブル実験が行われるようになった。多数のアンサンブル実験結果は、気候変動・変化の不確実性についての確率的な表現、最近発生した極端事象に対する温暖化の寄与の検出(イベント・アトリビューション)、低頻度でしか発生しない事象の気候変動影響の評価、年々変動に対する外部要因と内部変動の分離など、さまざまな研究での利用が考えられる。本専門分科会では、全球規模の気候から国内外の地域気候、およびその温暖化影響評価に至るまで、大規模アンサンブル気候実験の様々な視点での利用事例に関する講演を募集する。そして参加者の議論を通じて、新しい知見と今後の課題を共有することを目的とする。

世話人：水田亮（気象研究所）、塩籠秀夫（国立環境研究所）、森正人（東京大学先端科学技術センター）、渡辺真吾（海洋研究開発機構）、川瀬宏明（気象研究所）

4. 「気候変動が日本・東アジア域の降水現象の変化に及ぼす影響の理解に向けて」

趣旨：地球温暖化に伴い、気温はほぼ全球で上昇するが降水は地域差のある複雑な変化をすると指摘されている。特に日本・東アジア域は、ユーラシア大陸と太平洋に挟まれ、大陸と海洋、中緯度と熱帯の多方面からの影響を受けるため、気候変化に対する気象の応答の理解は容易でない。近年の日本では、2014年2月に南岸低気圧が甲府に前代未聞の大雪を、8月に広島市の豪雨が甚大な被害をもたらした。2015年9月に常総市で広域の洪水がおきた。気候変化は雨の降り方を変えているのだろうか。本分科会では、気候変動に伴う大循環の変化と日本・東アジア域での降水変化との関係について理解を深めるため、研究成果を持ち寄り議論する。気候モデル実験、気象・衛星観測、水同位体比、全球雲解像モデル出力データ等を利用した研究、海洋、成層圏、北極圏、対流圏上部を含めた大循環の変化が東アジア域の降水に及ぼす影響のメカニズム研究などの投稿を歓迎する。

世話人：高菽縁（東京大学大気海洋研究所），尾瀬智昭（気象庁気象研究所），中村尚（東京大学先端科学技術研究センター）

5. 「再生可能エネルギーなどの気象観測・予測情報の気象ビジネスへの利活用」

趣旨：気象観測・予測情報は、古くから防災・農業・雪氷分野などにおいて広く活用されてきた。近年は、固定価格買い取り制度（FIT）に起因する太陽光・風力発電の大量導入に伴い、再生可能エネルギーからの出力の把握や予測に気象情報の利活用が期待されている。それ以外では、保険・物流等の社会経済活動の中でも広く気象情報は利用されている。しかし、気象情報を必要としている応用分野は増加しているが、多様な分野の研究者・民間企業等を交え議論する場は少ない。このような状況の中で、2017年4月から気象庁において気象ビジネス推進コンソーシアムが立ち上がり、気象情報の需要やその利活用の方法が検討され始めている。そこで本セッションでは、気象情報の活用のための基礎的な研究から活用事例の紹介まで、再生可能エネルギーだけでなく分野を問わず幅広く講演者を募り、気象情報の今後の利活用方法について様々な視点から議論し、要望・提言なども頂きたい。また、セッション終了後に意見交換を行うための場を設けることを検討しており、興味のある方には積極的に参加頂き、活発な交流・議論を行いたい。

世話人：宇野史睦（産業技術総合研究所 太陽光発電研究センター），大竹秀明（産業技術総合研究所 太陽光発電研究センター），島田照久（弘前大学大学院理工学研究科），野原大輔（電力中央研究所環

境科学研究所），宇田川佑介（構造計画研究所 / 東京大学生産技術研究所），早崎宣之（伊藤忠テクノソリューションズ），山口浩司（日本気象協会），中島孝（東海大学）

6. 「惑星大気研究の今：観測，数値モデリング，理論」

趣旨：20世紀後半に、太陽系諸惑星の大気現象を考察することから出発した惑星大気科学は、各惑星の探査の進展、数値モデリングの本格化、地球流体力学の理論の深化、太陽系・惑星進化との関わりでの認識を経て多方向に発展してきたが、現在、数百を超える太陽系外惑星の発見を迎えて、さらに対象と問題意識を広げつつある。最近では、地球に似た太陽系外惑星7つが一気に発見され注目を集めた。一方、2015年12月に金星周回軌道に投入された「あかつき」は、多波長での撮像観測を通して、これまで知られていなかった金星大気の様子を次々に明らかにしつつある。

この専門分科会では、観測、数値モデリング、理論のあらゆる面で惑星大気の研究の最新の研究成果の発表を募集する。多様な研究を通し、惑星大気科学の到達点と将来の課題を展望する。

世話人：堀之内武（北大・地球環境），中島健介（九大・理）はしもとじょーじ（岡山大・理），今村剛（東大・新領域），高橋芳幸（神戸大・理）

VI. 非会員，団体会員の大会講演について

気象学会会員でない方は原則として大会講演を行うことは出来ません。しかしながら、短期滞在の外国人や他分野の研究者が気象学会において講演を行う場合を考慮して、講演企画委員会では専門分科会に申し込まれた講演が世話人により採用された場合に限り、非会員の講演を認めることとします。非会員が専門分科会に申し込んだ講演が採用されなかつ

た場合は、大会予稿は不採択となり、参加費が返却されます（講演者が気象学会会員の場合は、専門分科会で不採用になったとき、世話人と講演企画委員会の判断により一般口頭もしくはポスター発表への振り替えが行われます）。講演企画委員会としては、大会での講演発表を希望される方には、気象学会会員になって頂くよう強く要請します。

団体会員が団体名での講演申込を行った場合、個人会員と同等の扱いとなり、2件以内まで講演を行うことができます。ただし、団体の構成員で

ある個人の講演申込は認めておりませんのでご注意ください。

Ⅶ. 研究会活動への支援について

講演企画委員会では、大会期間中またはその直前・直後に会員が自主的に運営する研究会活動に対し、一般の会員が自由に参加できることを条件として、可能な支援をします。支援を希望する方は、次の事項を明記の上、講演企画委員会（E-mail: kouenkikaku2017a@mri-jma.go.jp）へ申し込んで下さい。なお、会場によっては利用料負担をお願いする

場合があります。

申込期限：2017年7月11日（火）

- 記入事項：1. 会の名称とテーマ
2. 代表者の連絡先
3. 希望日時・開催場所
4. 予想参加人数
5. 希望する支援内容

Ⅷ. 大会期間中の保育支援について

大会期間中の会場近隣の保育施設に関する情報は、下記より提供します。

〒065-0010 札幌市東区北10条東2丁目3-18 三上ビル 株式会社ジー・プロモーション・担当 川村
Tel：011-768-7814
E-mail：kawamura@g-promotion.jp

ただし、下左記は情報提供のみであり、保育施設への申し込みは利用者個人で行って下さい。また、補助は保育支援ガイドライン（<http://jinzai.metsoc.jp/content.html>）に則りますので、補助申し込み以降の手続きは学会事務局にお問い合わせください。

Ⅸ. キャリアエクスプローラーロゴについて

1. キャリアエクスプローラーロゴの趣旨

近年、社会問題化している若手・任期付研究者のキャリア形成をサポートするために、日本気象学会では、キャリアエクスプローラーロゴの利用を勧めています。これは、広く学術に貢献する人材の育成および活動支援の一貫として行うもので、会員が望ましいキャリア形成のために求職中の場合に、適職に出会うのをサポートします。



2. キャリアエクスプローラーロゴ

大会予稿や講演資料の中でこれを表示することで自分が求職中であることを表明できます。カラーと白黒のロゴの電子データを学会ホームページから取得できます。

3. 使用方法

ポスドクを含む任期付研究者や学生で求職中の会員、またはそれに準ずる会員が講演する場合に、大会予稿および講演資料の中で、キャリアエクスプローラーロゴを使用できます。

- 大会予稿：白黒ロゴを、講演タイトルの左側に、余白にはみ出さないよう適度な大きさに挿入してください。
- 口頭発表：発表資料の任意の場所に分かりやす

く表示してください。

3. ポスター発表：講演題目付近の分かりやすい場所に表示してください。

4. 使用に関する注意

1. 日本気象学会およびその会員の主催する講演会においてのみ使用できます。
2. 講演会は学術的な講演・議論を目的に行われま

す。口頭発表の時間内は、求職・求人に関する議論はご遠慮ください。

3. ロゴは講演者本人の責任の下で使用してください。その使用により生じた如何なる利益・不利益に対しても、日本気象学会は一切責任を負いません。
4. ロゴ導入の趣旨および適切な使用方法を逸脱した使用は一切認められません。

X. リクルートブースの設置について

日本気象学会は、大会会場にてリクルートブースを設置する予定です。これは、適職に出会うための機会を民間企業から広くご提供いただくことにより、気象学会に所属する大学院生や有期雇用の若手研究者のキャリア形成をサポートする試みです。企業の

就職担当者の方々にご来場いただき、就職を希望する参加者と直接情報交換する場を提供します。ブース訪問希望者の参加予定等の手続きは不要です。なお、参加企業名は大会プログラムとともに発表の予定です。

XI. 電子版予稿集の試行について

講演企画委員会では電子版予稿集の本格運用を目指し、運用形態の検討を行っています。今大会でも無料試行版

という位置づけで、製本版の予稿集に電子版（CD-ROM）を同梱する形で配布する予定です。

XII. 大会実行委員会からのお知らせ

1. 本大会では前納受付者には、事前に郵送で大会参加票と大会案内冊子（含・シンポジウム予稿集）が届きます。前納受付者は大会参加票を持参のうえ、そのまま会場へお越しください。前納受付者で大会参加票を破損・紛失した方および懇親会を当日新たに申し込まれる方、ならびに当日受付者は、学術交流会館 2 階・総合受付までお越しく

さい。

2. 北大構内は全面禁煙です。喫煙は所定の喫煙所でお願いします。
3. 学術交流会館・クラーク会館で会場となっている以外の部屋への立ち入りは、会議等で特別な予約がなされている場合を除き、ご遠慮ください。

公益社団法人 日本気象学会 大会発表規程

(公社) 日本気象学会 講演企画委員会

1. 大会の趣旨

- 1.1 日本気象学会は、気象学の研究を盛んにし、その進歩をはかり、学術文化の発達に寄与するために、気象学会大会を春季と秋季の年二回開催し、気象に関する研究会および講演会を行う。

2. 大会参加登録

- 2.1 大会において口頭発表またはポスター発表を行う者（招待講演者も含む）は、あらかじめ大会 WEB サイトを通じて個人情報登録ならびに大会参加登録・参加費決済を行うこと。
- 2.2 大会で講演（口頭発表及びポスター発表）を行うためには、招待講演者の場合を除き、大会予稿を投稿し、講演企画委員会（以下、「委員会」という。）により採択される必要がある。
- 2.3 個人情報登録と大会参加登録は本人が行うこと。連絡先は本人に必ず連絡が取れる所とし、代理人の連絡先は認めない。事情に応じて事務局から問い合わせを行うことがある。ただし国外からの参加登録、外来研究者による参加登録、インターネットを利用できないなど、本人による登録がやむを得ず困難な場合には、代理人による登録ができる。

3. 大会予稿の作成

- 3.1 大会予稿の形式等に関しては、大会告示案内（大会 WEB サイトに掲載）に従うこと。

4. 著作権の委譲

- 4.1 本予稿原稿の著作権は、日本気象学会常任理事会決定「気象学会の刊行物の著作権委譲の強化について（2013年1月29日付け）」にもとづき、気象学会に委譲するものとする。

5. 大会予稿の投稿

- 5.1 大会予稿の投稿は、発表者が指定された期日までに行うこと。投稿に際しては、共著者の了承を得るとともに、全ての著者のサインを記載した著作権委譲承諾書を提出すること。国外からの投稿、外来研究者による投稿など、発表者による投

稿がやむを得ず困難な場合には、代理人による投稿ができる。なお、発表者の承諾を得ずに代理投稿された場合には、それを受理しない。

- 5.2 同一発表者による発表可能件数は、最大二件までとする（招待講演もカウントする）。

6. 審査

- 6.1 委員会は、審査により、大会予稿の採択または不採択を決定する。大会予稿の採択または不採択は、委員会の裁量に委ねられ、以下に示す例のように、大会予稿の内容が気象学会大会発表として不適切だと委員会が判断した場合には、不採択とすることが出来る。

- (1) 発表内容が他人の研究成果の剽窃と判断される場合、
- (2) 大会予稿が定められた体裁から著しく逸脱すると判断される場合、
- (3) 発表内容が社会倫理上、不適切と判断される場合、
- (4) 発表内容が特定の個人ないし団体を誹謗中傷するものと判断される場合、
- (5) 大会の趣旨を逸脱した目的のために投稿がなされたと判断される場合、
- (6) その他大会の趣旨に鑑み、発表内容が不適切であると判断される場合

- 6.2 発表形態（口頭発表またはポスター発表）は、発表者の希望を考慮し、委員会が決定する。

- 6.3 大会予稿が不採択となった場合には、委員会から投稿者に対して理由を附して通知する。この場合、大会参加料（または参加種別による差額）は返却する。

- 6.4 不採択の理由を不服とする場合には、発表者本人が一回に限り再審査を申し立てることができる。

7. 再審査

- 7.1 再審査の申し立ては、申し立て者の氏名・連絡先、講演題目、著者、および再審査申し立ての理由を記載した再審査申立書（様式は任意）を、

委員会事務局宛に提出すること。

7.2 再審査申立書の提出は郵送で行い、不採択の通知を受けた日を含む七日間のうちに必着のこと。

7.3 再審査申し立てに際して、大会予稿の変更は認められない。再審査は委員会が行い、結果（採択・不採択）を申し立て者に通知する。

8. 採択後の変更・キャンセル

8.1 採択後に講演内容（講演題目、大会予稿）や発表形態を変更することは認めない。

8.2 病気等やむを得ない事情で発表をキャンセルする場合は、速やかに委員会事務局に連絡すること。発表がキャンセルとなった場合には、大会参加料は返却しない。